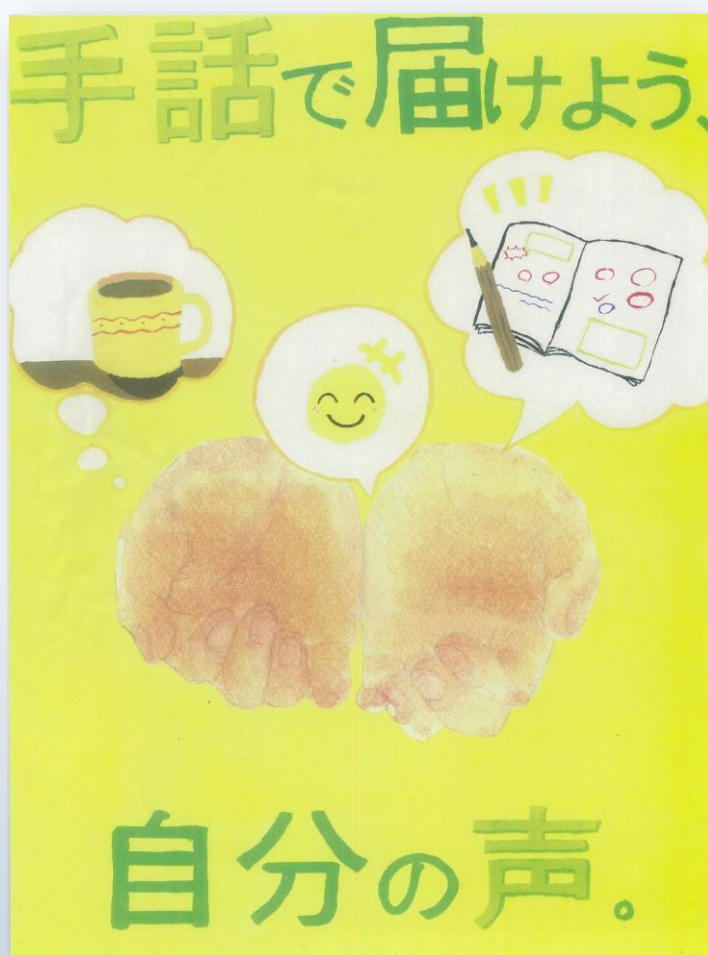
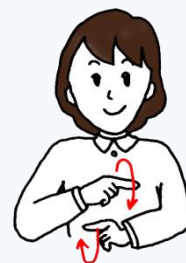


令和3年度県立高等学校・県立中等教育学校における

手話に関する 取組事例集



高校教育課
令和3年12月

はじめに

共生社会の実現を旨として、平成 27 年 4 月 1 日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

この条例は、ろう者とろう者以外の者が、互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することのできる地域社会を実現するため、手話の普及等に関する基本理念を定め、県の責務並びに県民及び事業者の役割を明らかにし、手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められています。そして、県の責務として、社会的障壁の除去に関する必要かつ合理的な配慮を行うとともに、手話を使用する者の協力を得て、手話の普及等を推進すること、また、県民の役割として、手話に対する理解を深めるよう努めることが求められています。その趣旨に則って、平成 28 年度から令和 2 年度の 5 年間を見据えて「神奈川県手話推進計画」が策定され、各学校においても、様々な手話に対する理解を深める取組が進んでおります。

本事例集は、令和 3 年 5 月の「手話の取組強化月間」等を中心に資料を提供していただいた学校の協力のもとに作成し、今回で 7 集目になります。

今年度も昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響による様々な教育活動の制約がありましたが、そのような状況下でも、オンラインを活用した取組をはじめ、優れた取組報告が多数あり、県立高等学校及び中等教育学校における手話の普及・啓発が着実に進んでいると考えます。なお、今年度から複数の活動での取組をされている学校やポスターの提供があった学校は従来とは別項目で紹介をしています。

今後も、本事例集を参考に、各学校の実態に応じて手話に関する積極的な取組の推進をお願いいたします。

令和 3 年 12 月

高校教育課

(表紙 横浜立野高等学校 美術部)

もくじ

☆手話のあいさつ	1
----------	---

☆授業での取組

1 横浜明朋高等学校 社会福祉基礎	2
2 小田原高等学校 家庭総合	3
3 相模原総合高等学校 学校設定科目「手話」	4
4 秦野総合高等学校 社会福祉基礎	5
5 伊勢原高等学校 音楽Ⅰ	6
6 大井高等学校 社会福祉基礎	7
7 津久井高等学校 コミュニケーション技術	8

☆特別活動での取組

1 白山高等学校 学校全体への普及とHR活動	9
2 菅高等学校 朝のHRで挨拶、声掛け等	10
3 上溝高等学校 福祉委員会「手話講座」	11
4 大磯高等学校 LHR	12
5 山北高等学校 手話による挨拶運動	13

☆部活動での取組

1 湘南台高等学校 全校生徒で手話クイズ	14
----------------------	----

☆図書館の展示

1 二宮高等学校 図書館におけるコーナー展示	15
------------------------	----

☆複数の活動での取組

(1)教職員(2)授業(3)特別活動(HR、生徒会活動、学校行事等)
(4)部活動(5)その他(図書館に展示等)に分類して学校から活動報告を提出してもらいましたが、複数の取組があった学校の紹介です。

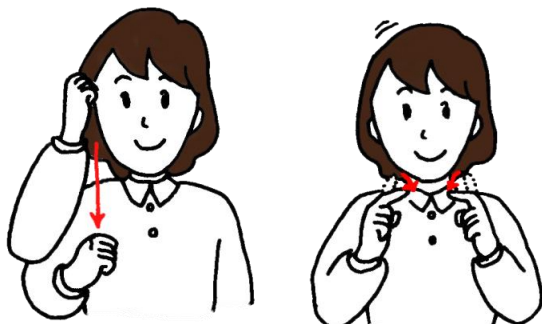
1 平塚工科高等学校 (3)(4)(5)	16
2 高浜高等学校 (2)(3)(4)	17
3 麻溝台高等学校 (2)(3)(5)	18
4 秦野高等学校 (3)(5)	19

☆手話ポスター紹介

横浜立野高等学校、追浜高等学校、平塚江南高等学校	20
茅ヶ崎北陵高等学校、上鶴間高等学校	21

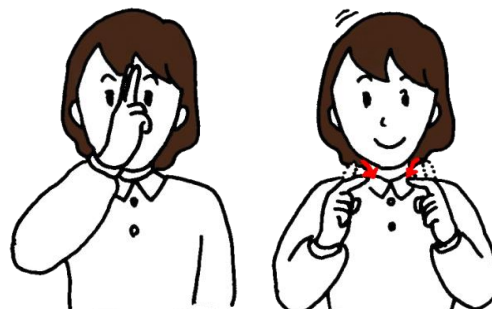
手話のあいさつ

おはよう



「朝」という手話（右手のこぶしを下に下ろす）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせませす。

こんにちは



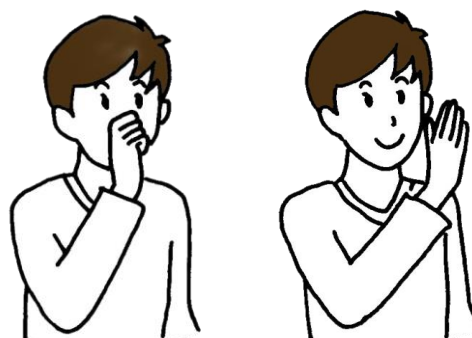
「昼」という手話（指で12時を表す）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせませす。

ありがとう



左手の手のひらは下向き、右手で一回切るようにします。

よろしくおねがいします



右手のにぎりこぶしを鼻にあて、軽く前に出して、手を開き、前に少し出します。

- 1 実施回数
2回（2時間×2回）
- 2 対象者
3・4年生選択者
- 3 実施者
佐々木 友起子（地歴・公民科教諭）
- 4 実施内容
 - ①授業開始時の挨拶を手話で行う。
 - ②教科書を使い、簡単な挨拶、自分の名前の手話を学ぶ。
 - ③全員で手話による自己紹介を行う。
「こんにちは」→「私の名前は〇〇です」→「よろしくお願いします」
 - ④「聴覚障害のある大学生の日常」動画を視聴し、感想を発表する。
 - ⑤グループに分かれ、インターネット、教科書、手話事典等を使い、校歌の歌詞の手話を考える。
- 5 生徒の感想等
 - ・聴覚に障がいがある人は、災害時などに情報が入らないことがあると知った。安全な対策がとれるように、自分も協力したい。
 - ・アルバイト先に耳の不自由なお客さんが来るので、これからは接し方を工夫しようと思った。
- 6 成果・課題
 - ・自己紹介を行ったことで、生徒同士が手話によるコミュニケーションをとることができた。
 - ・校歌の歌詞は未完成なので、今後の授業で継続したい。
- 7 手話の取組強化月間以外の取組
 - ・社会福祉基礎の授業で継続して校歌の歌詞の手話を考える。港南区社会福祉協議会、港南区聴覚障害者協会の協力のもと10月に完成した。
 - ・8月に芸術鑑賞会で全校生徒が手話による「演劇 EDDIE エディ ～劇団イング」を観劇予定だったが、令和4年度に延期とした。



港南区聴覚障害者協会会長と 校歌の手話を完成させる生徒たち



- 1 実施回数
3回
- 2 対象者
定時制1年次
- 3 実施者
佐古 広子（家庭科教諭）
- 4 実施内容
 - ・簡単な挨拶と指文字のイラストをプリントに表示して、自分の名前の表現方法を考えさせた。（知識・理解）（思考・判断・表現）
 - ・手話を学んでみよう！【指文字・数字編】【手話実技編】（かなちゃん TV）を視聴しながら、実演と一緒に基本的な手話の表現に取り組んだ。（関心・意欲・態度）
 - ・授業の始めに、手話で簡単な挨拶や自己紹介をさせた。（技能）
- 5 生徒の感想等
 - ・小学校の時手話を学んだことがあったので、思い出しながらできて良かった。
 - ・最初声を出さずに伝えるのはちょっと大変かなと思ったけど、やってみたら意外とおもしろかった。
- 6 成果・課題
日頃あまり会話をしない生徒同士でも、二人一組になって基本的な挨拶や自己紹介を互いに伝え合うことで、相手を理解しようとする姿勢が見られた。授業のひと時だけではなく、他に手話の機会の場を作ることが手話言語の広がりには必要だと思った。

★手話で自己紹介

二人一組になって手話で自己紹介をしました



1 実施回数

2単位×2講座

2 対象者

2・3学年

3 実施者

森 以津美（福祉科非常勤講師）、江成 渚（数学科教諭）

4 実施内容

全日本ろうあ連盟出版の手話テキスト「聴さんと学ぼう！」と独自プリントを活用し、実際に手話を使う事を中心に授業を行う。1年間で手話検定5級程度の力を付けることを目標に、名前・家族構成・自己紹介等基礎的内容の実施、読み取りから行い、趣味や買い物・病気・災害等の生活に関わる手話や、都道府県を表現する手話を学ぶ。相模原市聴覚障害者協会副会長や神奈川県登録盲ろう通訳介助者を招き、意思疎通の方法を学ぶ。

- ・思考・判断・表現⇒聴覚障がいへの関わりについて積極的に考えることが出来たか。
- ・資料活用の技能⇒手話による表現、発表、会話が出来ようになったか。
- ・知識・理解⇒聴覚障がい、手話に関する基礎的な知識を習得し、聴覚障がいについて理解することが出来たか。

5 生徒の感想等

聴覚障がいの方と手話でコミュニケーションをとることが出来てとても良かった。盲ろう体験を通して、健常者と聴覚障がい者の日常生活における違い、苦労、工夫を知ることが出来た。手話に限らず、相手とコミュニケーションをとろうとする姿勢の重要性を学んだ。

6 成果・課題

障がい者理解が深まり、ハンディキャップの大きさを実感することが出来た。今後、健常者に出来ることは何か、考える機会を得ることが出来た。

★コミュニケーションの基本は「あいさつ」です

時と場合に応じた様々な「あいさつ」を学びます



- 1 実施回数
3回（予定）
- 2 対象者
「社会福祉基礎」を選択している生徒 35名
- 3 実施者
社会福祉基礎の授業担当者
- 4 実施内容
秦野市役所 福祉部 障害福祉課及び秦野市聴覚障害者協会から講師を招いて、「社会福祉基礎」の授業で講義を行う。「聴覚障害の生活と手話」というタイトルで、手話の重要性や聴覚障がい者とのコミュニケーションについて講義をしていただき、聴覚障がいについて理解を深めた。講義終了後にレポートを提出し、聴覚障がいについて理解を深める事ができたか、自己の考えをまとめているか、また、自己の考えを整理し具体的に表現できているかという観点で評価を行っている。
- 5 生徒の感想等
 - ・聴覚障がい者が生活する上で必要な情報を視覚的に得られるよう、様々な工夫がされている事が分かった。
 - ・聴覚障がいを身近に感じ、手話を知っていればコミュニケーションがしっかりとれることを学んだ。
- 6 成果・課題
「障がいのある方と繋がることができる」、「大切なコミュニケーションツールである事を学ぶことができた」と感想を書いていたこともあり、今後もこのような機会を作ることができるよう検討していく。
- 7 手話の取組強化月間以外の取組
聴覚障害者を招いて、手話についての講演会を行う。（時期は未定）

- 1 実施回数
8回
- 2 対象者
1年生芸術科（音楽）選択者
- 3 実施者
福島 克己（音楽科教諭）
- 4 実施内容
コロナウィルス感染防止のため、合唱の指導においても大きな声で歌うことが難しい。
五十音を手話で学んだあと、「翼をください」の曲に乗せて歌詞を手話で表しながら「歌う」
学習を行った。
- 5 生徒の感想等
手話の形や意味と歌詞の内容を一緒に考えながら歌うことが面白かった。
手話を覚える機会になって良かった。
- 6 成果・課題
生徒会や委員会を主体にした全校的な手話の取り組み方を考えていきたい。
- 7 手話の取組強化月間以外の取組
生徒支援グループ職員指導による、教職員手話研修（2学期）。

★「翼を広げ♪～」と手話を用いながら口ずさみます



1 実施回数

1学期各クラス1回

2 対象者

「社会福祉基礎」履修生徒 46名

3 実施者

社会福祉基礎担当者

4 実施内容

- ・挨拶、地名・場所、数字など
- ・耳の不自由な人の状況を理解すること。

〔関心・意欲・態度〕聴覚障がい、手話について関心を持ち、手話に主体的に取り組んでいる。

〔思考・判断・表現〕手話の意味について考え、判断・表現している。

〔知識・理解〕手話に関する基礎的な知識を身に付け、活用している。

5 生徒の感想等

- ・体を動かせるので楽しい。
- ・自分の手話が聴覚障がい者に伝わったとき、楽しい。

6 成果・課題

成果：1年生の約半数が毎年履修しているため、言語としての手話が本校生徒の中に浸透しつつある。

課題：新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行いながら、マスクを着用していても相手に伝わるような手話をできるようにしていくことが必要である。

7 手話の取組強化月間以外の取組

- 「社会福祉基礎」の授業において手話を学ぶ（通年）
- 神奈川聴覚障害者協会より講師を招き手話を学ぶ（通年）

1 実施回数

4回

2 対象者

1学年福祉科

3 実施者

小田川 紘子（福祉科教諭）

4 実施内容

各授業時間の冒頭 10 分間を活用し、簡単な手話表現の実践を行った。

1. 授業開始、終了時の挨拶（よろしくお願ひします、ありがとうございました）
2. 自己紹介（私の名前は〇〇です。津久井高等学校で福祉を学んでいます。）
3. ・簡単な会話（今日〇〇と一緒に行きませんか。）
・自身の興味のある単語の手話表現を調べる。
4. 福祉・介護現場で実践できる手話（これから〇〇〔食事、入浴、お手洗い、着替えなど〕のお手伝いをしてよろしいでしょうか。）

※ いずれの授業においても、福祉・介護分野で活用する場面を想定した内容を多く取り入れた。

5 生徒の感想等

- ・介助に関する手話を習ったので、実習先で活用してみたい。
- ・手話ニュースなどで見たことはあったが、実際にやってみると難しかった。今後は手話表現とキャスターが読み上げる内容を照らし合わせて、手話についてより学んでいきたい。
- ・手話は様々な動きを組み合わせるため楽しかった。授業以外でも手話に触れてみたいと思った。
- ・手話を学ぶことを通して、手話が大切な言語であることを実感した。手話はみんなにとって必要であり、より多くの手話の意味や表現方法を知っておくことが求められると感じた。
- ・以前にも手話に触れたことがあったが、今回の手話の勉強で一つひとつの手話に意味や由来があることを改めて知り、手話についての理解が深まった。

6 成果・課題

今回の取組を通して、手話は身近な存在であることを認識し、関心を持った生徒が多かった。生徒が福祉・介護現場で活用できる手話表現を取り入れたことで、手話を活用できる場面の見通しがつき、関心が高まったようにも感じる。しかし、教員の手話のスキルが及ばず教えられる内容に限りがあったことも反省点である。今後も手話に関する基本技術を習得するために研鑽を重ねたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組

2学期初頭の授業内容「サービス利用者に応じたコミュニケーション（聴覚障がいのある人とのコミュニケーション）」において、他の言語的方法である【口話】や【筆談】とともに改めて手話の学習、復習を行った。既習の基本的な手話、福祉・介護現場で実践できる手話以外に、災害時に活用できる手話や、災害時等における聴覚障がいの情報格差の問題についても取り扱った。また、今内容では、障がいの部位や障がいを有した時期によって必要とするコミュニケーション方法が違うこと、当事者の障がいの状況・ニーズに応じて様々な言語的方法を使い分けることなど、聴覚障がいの基本的知識や、聴覚障がいの多様性・個性の高さについても学習した。

1 実施回数

5月10日～31日 (実施回数は未確認)

2 対象者

全校生徒

3 実施者

HR担任、副担任、生徒会役員、図書委員等

4 実施内容

- ・生徒会役員が、校内の生徒の目につきやすい場所に、ラミネート加工した手話の基本的な挨拶等の方法を掲示し、全校生徒に紹介した。
- ・図書委員会での活動で、手話の関係の本を増やし、図書館内にお薦め本コーナーを設置した。
- ・担任や副担任がクラスにて改めて紹介・実践

※上記の手話の説明を強化月間後も継続して掲示し、生徒が手話について知り・考える機会とした。

5 生徒の感想等

日常生活の中で自然に使う機会が少ないため、一度実践して知ることはできるが、身につけるのは難しいと思った。挨拶等、理解しやすく覚えやすいものもあると感じた。

6 成果・課題

日常生活の中では、使う頻度が少ないため、生徒が手話による挨拶を自然に活用できるようにしていくには、継続的な活用機会・時間が必要である。また、繰り返し触れる機会を作っていくたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組

図書委員会が広報紙を作成して、図書館所蔵の手話に関する本を紹介した。(9月)

★図書委員会広報紙で手話に関する本を紹介

特集 2 ★図書館にある手話の本★

本校図書館所蔵の手話に関する本をご紹介します♪

手話は、耳の聞こえない方が意思を伝えるための大切な言葉です。
神奈川県では、ろう者とうる者以外の者がお互いにその人格と個性を尊重し合いながら共生することのできる地域社会を目指し、平成27年4月に神奈川県手話言語条例が制定されています。

*図書館内、雑誌の棚の手前に手話の本のコーナーを作りました！



書名	著者・編者等	出版社	分類
----	--------	-----	----

<手話を学ぶ> : ここで紹介する本の他にも、いろいろなお本があります。

ひと目でわかる実用手話辞典 第2版	手話技能検定協会	新星出版社	378
はじめての子ども手話	谷 千春	主婦の友社	378
はじめてのボランティア手話	谷 千春	主婦の友社	378
新しい手話 2016		全日本ろう連盟	378
今日からはじめるやさしい手話		学研プラス	378
歌でおぼえる手話ソングブック 1~3	新沢 としこ	すずき出版	378
I LOVEコミュニケーション 改訂		全日本ろう連盟	378
基本の手話すぐに使える会話と表現	野口 岳史	メイツ出版	378
みんなの手話の事典	藤田 三郎	三省堂	378
今日から役立つハンディ手話辞典	全日本ろう連盟	学研プラス	378
持ち歩きやさしい手話	豊田 直子	日本文芸社	378

書名	著者・編者等	出版社	分類
----	--------	-----	----

<手話部のある学校を紹介>

部活魂この文化部がすごい	読中中高生新聞編集室	筑摩書房	375.1
--------------	------------	------	-------

<手話通訳の仕事>

手話通訳者になろう	木村/晴美	白水社	378.2
ポブラディアプラス仕事・職業 下巻		ポブラ社	366

<バリアフリーの本>

「お手伝いしましょうか?」おれは、そのとこ	高橋/うらら	講談社	369
泉屋林線工夫がいっぱいユニバーサルデザイン	川内/実彦	学研プラス	369.2
みんなのバリアフリー	徳田/克己	あかね書房	369
新しい心のバリアフリーずかん	中野/泰志	ほるぷ出版	369

<聞こえない人へインタビュー> 耳の聞こえない人の生活を丁寧にノリよく紹介。

耳の聞こえない人、オモロイと思わず言っちゃ本	大谷/邦郎	星海舎	369.2
------------------------	-------	-----	-------

<手話がでてる小説> 手話通訳士が主人公の本格ミステリー。司書おススメ!

デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士	丸山/正樹	文藝春秋	913.6
龍の耳を君に : デフ・ヴォイスの結核	丸山/正樹	東京創元社	913.6

<手話がでてるコミック> 2016年に映画化。「気持ちを伝えることの難しさ」を描いた作品

聲の形 1~7	大今/良時	講談社	726.1
---------	-------	-----	-------

<番外編 日本の手話と世界の手話・方言手話、匿名手話>

国際手話のハンドブック	大杉 豊	三省堂	378
世界のなかの日本語 3-6	榎本/茂雄, 田/和彦	小峰書店	810
世界の文化と衣食住 1~4	若木/佑司	小峰書店	382

特別活動

2

菅高等学校 朝のHRで挨拶、声掛け等

- 1 実施回数
5回(月～金)
- 2 対象者
全生徒 28クラス
- 3 実施者
全教員・全生徒
- 4 実施内容
手話週間として実施
月：はじめまして
火：自己紹介編、あいさつ（おはよう、こんにちは、こんばんは、さようなら）
水：言えないとだめだよ編（ありがとう、ごめんなさい、大好き）
木：いざというとき編（危ない、逃げて、ここでまって）
金：熱い思いを伝えろ編（頑張り、大好き、I Love you）
- 5 生徒の感想等
もっといろいろな手話を知りたいと思った。手話の1つひとつに意味があることを知った。手話で実際の会話をしてみたいと思った。等
- 6 成果・課題
多くの生徒が手話に興味を持った。1週間（5日間）だけではなく今後継続的に実施できたらコミュニケーションの幅が広がると感じた。
- 7 手話の取組強化月間以外の取組
教員モデルの手話ポスターの掲示、常設。

★朝読書後のリフレッシュ手話練習！

おはよう！ こんにちは！ こんばんは！ さようなら！ あいさつをしっかりと覚えます！！



1 実施回数

1回

2 対象者

福祉委員会生徒 36名

3 実施者

手話に詳しい本校職員

4 実施内容

福祉委員会「手話講座」

目的 手話を通じて、福祉について学び、社会の一員であるという自覚と、社会に貢献できる素地を育む。

時程 11:15 開始・挨拶

11:20 講義・体験

11:55 振り返り

12:00 まとめ

12:05 終了

5 生徒の感想等

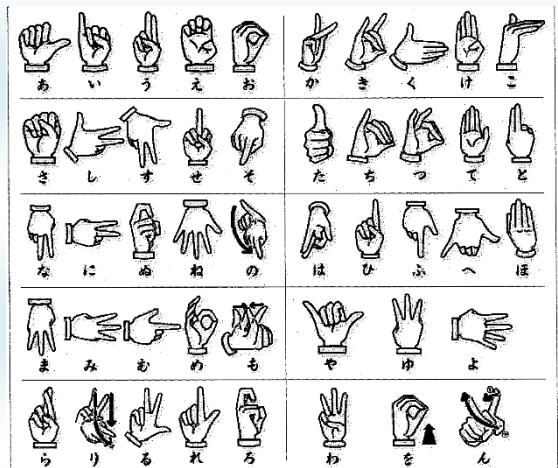
- ・耳が聞こえない人の苦勞がわかった。手話への興味がわいたので挨拶など簡単なものを自分から学んでみようと思いました。
- ・手話の成り立ちを知ることができて楽しかった。思っていたよりも身近で分かりやすいものだった。

6 成果・課題

今回は新型コロナウイルス感染症の感染防止のために外部講師を招待することができなかったが、次年度は外部講師による講習会を企画したい。

手話講座

手話を楽しく学ぼう



1 実施回数

1回

2 対象者

全校生徒

3 実施者

福祉厚生委員会

4 実施内容

まず、教員が福祉厚生委員に対し、プリントを用いて以下の内容を伝えた。

- ・聴覚障がいがある方の困難及びサポート方法。
- ・手話の歴史。
- ・聴覚障がいがある方とコミュニケーションをとる際に使えるアプリ「こえとら」の紹介。
- ・指文字（お・お・い・そ）と、「何かお困りですか」「お手伝いしましょうか」といった実用的な手話の紹介。

その後、5/17（月）のLHRの時間で、福祉厚生委員が自分のクラスメイトに対し、プリントに沿って手話の内容を紹介した。また、手話をクラスメイトに教え、クラス全体で実践した。

5 生徒の感想等

「指文字は左利きでも右手で行うのか」などの質問が生徒側からあがり、手話を学ぶ積極的な姿勢がうかがえた。

6 成果・課題

手話を学ぶ過程で、手話そのものだけではなく、聴覚障がいがある方が日常生活で苦労していることなどを生徒が知る機会となり、実りある時間になった。

★大磯高校手話講座の資料より

指文字を使ってみよう！

<自分から見たとき>



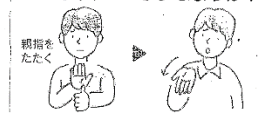
<相手から見たとき>



街中で声をかけるとき・・・



お手伝い しましょうか?



疑問文は 表情も大事!



特別活動
5

山北高等学校 手話による挨拶運動

- 1 実施回数
4回
- 2 対象者
全学年
- 3 実施者
生徒支援グループ職員、生徒会本部役員
- 4 実施内容
緑の募金運動に併せて、生徒会本部役員を中心に手話による挨拶運動を行った。時間帯は朝の登校時間に合わせ、校門前で全校生徒に向けて活動した。手話は「おはようございます」の挨拶のみであったが、登校中の生徒へ何度も挨拶を行い、手話に対して親しみを持ってもらった。
- 5 生徒の感想等
簡単な挨拶のみであるが、手話に対する苦手意識が薄れ、明るく笑顔で挨拶できてよかった。挨拶を返してもらえたのがうれしかったので、コミュニケーションの大切さを感じた。
- 6 成果・課題
多くの生徒に手話に親しんでもらうことができた。数人からは挨拶を返してもらうこともできたが、多くの生徒は見ていただけだったので、多くの生徒が体験できるようにしていきたい。

★手話で「おはよう！」

生徒会本部役員が手話による朝の挨拶を行っています
笑顔で元気よく挨拶して、手話に親しみましょう



部活動

1

湘南台高等学校 全校生徒で手話クイズ

1 実施回数

1回

2 対象者

全校生徒

3 実施者

ボランティア部

4 実施内容

6/25～26 ボランティア部の生徒たちの話し合いにより、全校生徒に対して手話への関心を高めるために、「手話クイズ」を実施することに決定。生徒たち自身で、スマートフォンとタブレットで、話し合いながら問題を選び、Google Forms でクイズを作成した。クイズは全部で6問。絵を提示し、答えを選択させる形式で行った。

6/27～31 Google Forms での手話クイズを全校生徒対象に実施。実施期間、朝のHRにて担任より呼びかけを行った。289名の生徒が参加した。参加を3学年縦割りのブロックで競い、参加率を発表するとともに、手話への関心と呼び掛けた。

5 生徒の感想等

「普段手話に関わりのない人が参加出来た」「たくさんの人に手話に興味を持ってもらうきっかけになって良かった」「手話を習得できれば聴力に障がいを持っている方と意思疎通ができるので、いい取り組みだと思いました。」

6 成果・課題

普段手話に興味関心を持っていなかった生徒も、クイズ形式で互いに参加を促すことで、手話に興味を持つことができ、一定の成果があった。

7 手話の取組強化月間以外の取組

ボランティア部作成による手話ポスターの掲示（通年）

★PCを使用して手話クイズを作成中



★クイズで出題する手話をやってみました



1 実施回数

5月17日～5月31日

2 対象者

図書館に来館する生徒

3 実施者

司書

4 実施内容

手話の取組強化月間にあわせて、図書館で聴覚障がい関係資料を展示。希望者には自分の自己紹介を手話でできるよう司書と一緒に練習するなどした。

5 生徒の感想等

展示期間中に聴覚障がい関係資料の貸出があり、その後手話検定5級のテキストのリクエストがあった。当該生徒より、手話通訳士になりたいが年収が低い…との発言があったので自分で手話通訳士について調べた様子。また展示資料を見て、指文字で自分の名前を披露してくれる生徒や HANDSIGN が中学校に来たことを話してくれる生徒もいた。

※HANDSIGN…歌、ダンス、手話という新しい表現方法で伝えるボーカル&手話パフォーマンスで男性二人組ユニット。ストリートダンスに手話を取り入れた「手話ダンス」で活動。

6 成果・課題

展示期間中に資料の貸出や生徒からの反応があったが、その後の興味をつなげることが課題。ろう者と手話で意思疎通ができる楽しさを経験できるような機会、例えば、ろう者との交流会や手話教室など、コロナ禍が落ち着いたら実施してみたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組

新入生への図書館利用オリエンテーションを司書が手話付きで実施。(4月)

★図書館で関係資料を紹介



1 実施回数

- (3)学校説明会などを中心に、生徒会の活動時
- (4)部活動時に随時作成
- (5)図書だより特別号を発行

2 対象者

- (3)生徒会役員
- (4)美術部員 及び 全校生徒
- (5)全校生徒

3 実施者

- (3)生徒会役員
- (4)美術部員
- (5)司書、図書委員会

4 実施内容

- (3)生徒会活動時の挨拶等を手話を交えて行う。
- (4)A4(ヨコ)サイズの校内掲示用ポスターを作成し、図書室や教室棟廊下等に掲示する。
- (5)図書だよりに、図書館にある手話に関する書籍の紹介、日常で使用できる簡単な手話の掲載

5 生徒の感想等

- (3)日常的な挨拶は覚えると楽しい。みんなとやると恥ずかしさが無くなる。
- (4)作品制作として、手話を覚えられるのは良い。何種類かを制作すると関心が湧く。
- (5)色々な本がある事を知ってもらい、図書室の利用に繋げたい。

6 成果・課題

- (3)全校集会や説明会などでも実施できると良い。
- (4)文化部だけでなく、運動部にも実践できる機会があると良い。
- (5)一般的な委員会活動にも、手話を取り入れた活動ができると良い。

7 手話の取組強化月間以外の取組

- ・社会福祉委員会の募金活動に、挨拶やお礼などを手話で行う。(10月下旬の予定)



▲図書だより「手話特別号」



▼美術部作成の掲示物



1 実施回数

(2) 6時間(50分×6コマ) (3) 5回 (4) 放課後週2回(各2時間程度)

2 対象者

(2) 「コミュニケーション技術」選択生徒(3学年36名) (3) 全生徒

(4) 手話コミュニケーション部生徒(33名)

3 実施者

(2) 当該授業担当者 (3) 手話コミュニケーション部顧問 (4) 手話コミュニケーション部顧問

4 実施内容

(2) 年間を通して、さまざまな場面における手話表現について学習および演習を行った。また、聴覚障がい者との交流を通して、聴覚障がい者への支援及び手話によるコミュニケーションを実施した。

(3) 神奈川県に関する手話表現及びあいさつ表現を実施した。

(4) 年間を通して、手話表現の習得及び各種大会・イベントに参加し、手話の普及活動に貢献した。

5 生徒の感想等

学習した手話表現を、手話を言語としている方々とのコミュニケーションに活用し、手話を通じた瞬間は大きな喜びだった。また、手話を知らない人が、手話に興味を持つきっかけ作りに関わることができたことは、とても嬉しかった。

6 成果・課題

成果：手話を学び、活用することで、聴覚障がい者への理解につながる機会があった。

課題：以前よりも手話コミュニケーション部が参加できるイベント等が減少した。

7 手話の取組強化月間以外の取組

① 手話コミュニケーション部が平塚ろう学校とオンラインで交流を実施(6月)

② 神奈川県聴覚障害者大会において、手話に関する成果発表等を実施(11月予定)

③ 本校生徒が学習した手話を活用し、湘南養護学校高等部の生徒との交流会を実施(12月予定)

④ 各種学校行事における手話通訳及び手話コミュニケーション部の活動報告等を実施

★「コミュニケーション技術」選択生徒の授業の様子



複数取組

3

麻溝台高等学校 (2)授業始めの挨拶 (3)1学年朝のHR
(5)手話コーナーの設置

1 実施回数

(2)授業 17回 (3)HR9回

2 対象者

1学年

3 実施者

(2)授業担当者 (3)1学年HR担任及び生活グループ人権担当者 (5)図書司書

4 実施内容

(2)1学年の教科担任全員が協力し授業始めの挨拶を手話で実施した。

(3)担任から {おはよう・こんにちは・ありがとう} の手話をHRで生徒とともに取り組んだ。

(3)人権担当職員が担当全クラス(1年×3、2年×5)で配付リーフレットで手話の楽しさとその意義を紹介した。

(3)(5)県配付のリーフレットを1学年生徒全員に配付。残部を2・3学年廊下・職員室前廊下に掲示。

(5)図書室に手話コーナーを臨時設置し、関連書籍を展示、その活用をHRで紹介。

5 生徒の感想等

手話を身近に感じた、手話は楽しいなどの声があることが聞かれた。

6 成果・課題

学校行事や学年始めの事務的な仕事が集中する時期と重なる等の課題があった。手話の楽しさを生徒に伝えることができた。

1 実施回数

(3)5月の手話取り組み月間中 (5)図書室の展示ケースに書籍紹介を常設

2 対象者

全校生徒

3 実施者

各クラス担任

4 実施内容

事前に教材「手話を楽しく学ぼう」動画を使用して、まず教員が予習。その後、朝または帰りに関心を持たせるために、図書室の展示ケースの中に手話関連の書籍を置いて、生徒の目に触れるようにした。

5 生徒の感想等

- ・簡単な手話で複雑な会話が可能になることに驚いた。
- ・何か困っているろう者に声をかけて手助けできるように基本的な手話だけでも身に付けたいと思った。
- ・手話は日常的に何度も繰り返さないと、なかなか身に付かないと感じた。

6 成果・課題

手話に対する意識付けはできた。まだ、紹介のレベルなので、実社会でも使えるように、HRだけでなく、平常の授業の中でも取り扱うことを検討していく。

7 手話の取組強化月間以外の取組

LHRおよび朝・帰りのHRで実施可能な内容（第2弾）を検討中。



帰りのHRにて 担任による手話の解説



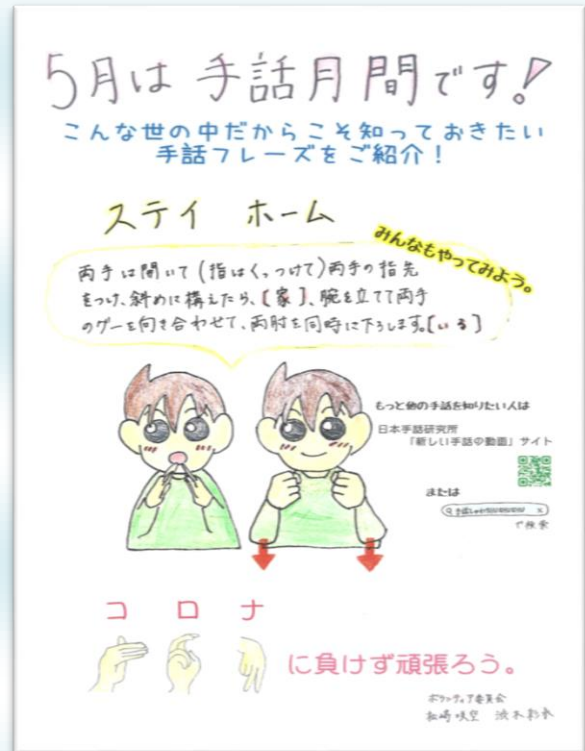
挨拶の手話を実践してみる



手話ポスター紹介



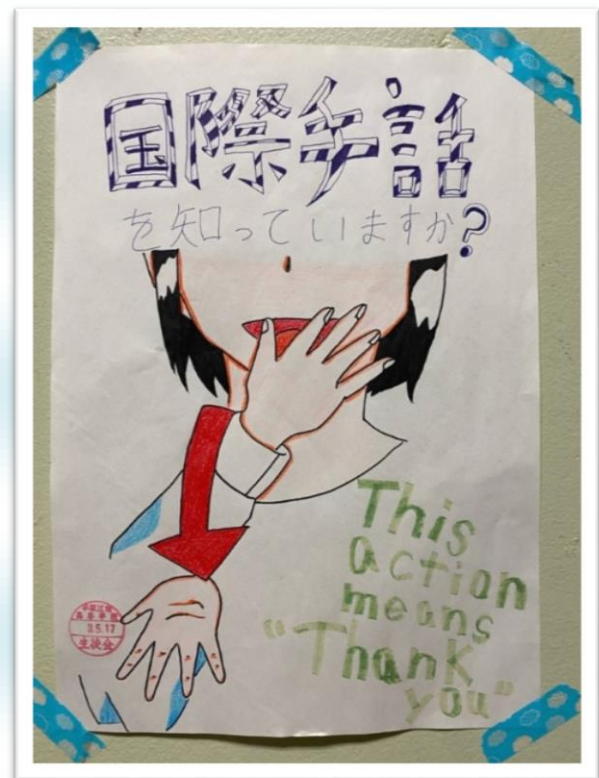
▲横浜立野高等学校 美術部



▲追浜高等学校 ボランティア委員会



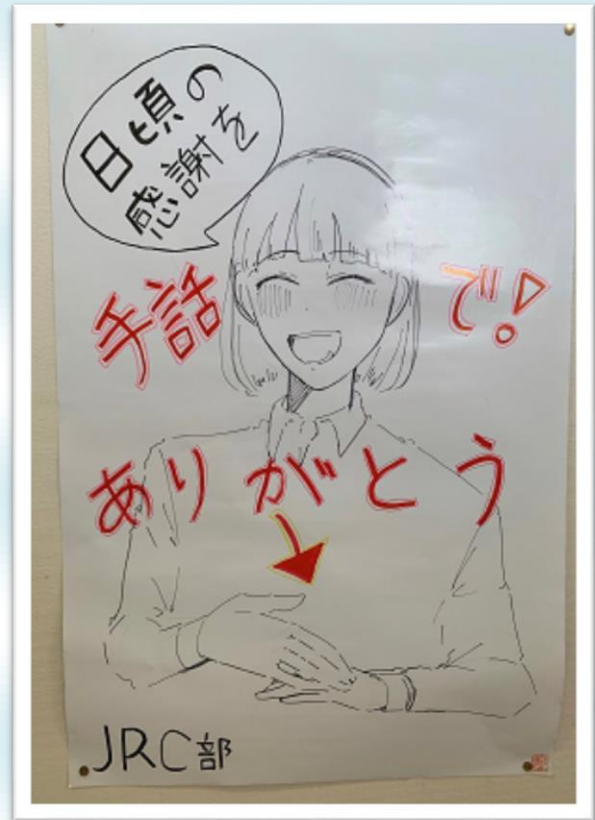
▲平塚江南高等学校 生徒会



▲平塚江南高等学校 生徒会



▲茅ヶ崎北陵高等学校 JRC



▲茅ヶ崎北陵高等学校 JRC



▲上鶴間高等学校 美術部



▲上鶴間高等学校 美術部

発 行	令和3年12月10日
編 集 者	神奈川県教育委員会教育局指導部 高校教育課長 増田 年克
発 行 者	神奈川県教育委員会 〒231-8509 横浜市中区日本大通 1 TEL (045)210-1111 内線8260